

洛西ニュータウンのラクセーヌが転機に！

洛西ニュータウンの中心地にある「ラクセーヌ」が転機を迎えている。ニュータウンができて40年が経過し、住人の大半が団塊の世代であり相応の高齢者になりつつある。開設当初は近隣に競合店もなく、周囲の住人も40歳代が多く、繁盛した。しかし、時間が経過する中で住人の高齢化が進行し、2014年東に3kmにできた大型競合店に客足を取られ、苦戦が続いている。また、隣接する百貨店の高島屋も、店舗の運営に頭を悩ませている。



洛西ニュータウンの住民の高齢化に伴い、周辺のスーパーマーケットも撤退が相次ぎ、住民の買い物環境が激変している。周囲は坂道が多く、高齢者が自動車が使えないと、買い物に行くことが非常に難しい環境にある。「買い物難民」とも言われ、70歳以上の年齢で免許証を返納した住民もあり、街中の便利な場所への引っ越しも見られる。

＜解説：団塊世代の住環境＞日本全国どこでも同じことだが、昭和20年代から30年代にかけて生まれた、いわゆる「団塊の世代」の高齢化問題。特に、昭和の50年代前後に全国各地で大規模住宅開発が起こり、多くの団地が生まれた。30代、40代で引っ越して来た時点ではよかったが、この世代が60代、70代になると交通の便の悪い団地での生活が、次第に困難になりつつある。子供たちが学校を卒業し、親元を離れ、別の場所で暮らしを営むと、高齢者夫婦だけの生活となり、買い物、医療機関、行政などの生活圏の確保が課題となる。60代では、まだ車が運転でき、足の確保が可能な間は特に問題はないが、70代になると運転免許証の返納をする人もでてくる。

途端に生活の質が悪化し、公共交通機関も利用しにくくなると、買い物や医療機関などへのアクセスが非常に難しい。一部の地域では、住民がボランティアで循環バスを運営したりする地域もあるが、まだごく少数だ。この京都の洛西ニュータウンに限らず、全国各地で同様の光景が見られ、課題が顕著になるだろう。逆に、この社会課題を少しでも解決できるソリューションが見いだせることができれば、大きな社会加地の解決につながる。NETでの買い物というだけでは済まない大きな社会課題が生まれている。